

02・昼休みの屋上で大股開きさせられて、ねっとり耳舐め言葉責めクリコキでイカされる

〈ヘシチュエーション〉

本編トラック01からそのまま続き。

七月四日（木）十二時過ぎ。

主人公と詩音が通う「音海（おとうみ）学園」の屋上。

主人公と詩音は、屋上のベンチに並んで座り、キスしている。

SE1 屋上の環境音

【最初から最後まで流す】

【繰り返し流す】

【トラック01とは開始位置を変えて流す】

【0―5秒ほど流して『詩音』のセリフ】

【その後、音量が小さくなる】

【ごく小さな音量で流す】

●【1】

●※※までキスの位置に合わせて上下左右に多少移動している感を出しながら※

■屋上のベンチに並んで、座ってキスしている。

詩音の方から、非常に積極的に求める。

詩音は本来『一見クールだが、恋愛面では奥手で臆病』という性格である。

しかしサキュバスの血が目覚めた事で、以前よりも欲望に忠実になり、湧き上がる衝動をコントロールできなくなってきた。

その上、詩音は主人公の考えている事まで理解できるようになった。

しかも『自分を憎からず思っている』『性的な事に強い関心がある』とわかり『強く押せば、主人公は流されてくれるのではないか』と思い始めている。

本来の性格としては、『ちゃんと恋愛したい』と思っている。だが、今の衝動的な自分は『まずは肉体的に結ばれて、なし崩し的に深い関係になればいい』と、安直に思っている。なので、心と実際の行動にずれが生まれているのである。

「【主人公の額にキスする】

……ちゅ。

【左の頬にキスする】

ちゅ。

【右の頬にキスする】

ちゅ。

【唇にキスする】

ちゅ♡ ※

【※4回※ とてもゆっくり呼吸する。

無意識に主人公の匂いをかいている】

ふー……っ♡ すー……っ♡ ふー……っ♡ すー……っ♡

【※しばらく※ 唇にキスする。

ねっとりした、ごく自然に、でも夢中になってしているキス】

ちゅ♡

んっふ……ちゅ♡

ちゅっ。ちゅっ♡

……ちゅっ。ちゅ♡

【うっとり息をつく】

はぁぁ……♡

【唇にキスする】

ちゅっ♡

● ※※※まで、鼻呼吸しながら※ キスする

【※しばらく※ 鼻呼吸しながらキスする。

キスの方向性としては、先程のねっとりしたキスを維持しながら、ますます濃く、深くなっていくイメージ。

鼻呼吸を強調する時（セリフとして書かれている時）は、あまり音のしないキス（舌を
れるれる絡める）をしている】

ん……ふー。はー、ふー……っ。

ちゅ♡

ふーっ……ふちゅっ♡ ふううっ……ちゅ♡

ちゅ、ちゅ、ちゅっ。

くちゅ♡ ちゅるっ♡ ちゅっ……くちゅっ♡

すーっ……♡ んっふ……れぶっ♡

んふ……れる、れる、れる。

れる、れる、れる……っ♡

んむっ♡ んっ……♡ ちゅくっ♡

ふー、ふー、ふー。

ふー……ふー……ふー……。

ちゅ♡

んんう……ふー……ふー……くちゅ♡

れるれるれる……れるれるれる……。

ぴちゅちゅっ……れるっ ♡ ※

【うっとり息をつく】

はあああっ……♡

■匂いから得た情報を、キスして得た力で咀嚼している。

完全に無意識のうちにやっている

●※小さく頷きながら※ 話す

【独り言のように、何度も頷く。

『深く納得した』『非常によくわかった』という感じで】

……うん。

●※少し間をあけてから※ 話す

……うん。

●※少し間をあけてから※ 話す

うん……わかってきた」

〈主人公〉

「詩音ちゃん……？」

SE2 詩音が主人公を抱きしめる音

【最初から最後まで流す】

SE3 詩音が主人公の背中を撫でる音

【最初から最後まで流す】

【繰り返して流す】

【次の『詩音』のセリフと同時に流す】

【▲1 でフェードアウトする】

● ※移動※

● 【7】

■ 主人公の右耳側に頭を置き、抱きしめて背中を撫でる。

先程までの主人公の気持ちを読み取り、心から主人公をいたわって、共感を寄せる。

主人公は何やら先ほどまで、強い緊張や不安を感じていたようだ。

それなのに詩音のためにその気持ちを抑え、尽くしてくれていたのである。

『それは当然だ。自分におかしな頼みごとをされて、さぞ怖かっただろう。元凶は自分だが、できる限りの償いはしたい』と思いつつながら、主人公に触れる

「優しく、やさしくしよう。」

一行ごとに少し間をあけて、ゆっくりと」

よしよし……怖かったね。

ずっと緊張してたんだ。

【切なげに、嬉しそうに。

喜びと感謝の気持ちが抑えきれない、という感じで】

なのに、あたしの為に……ほんとにありがとね。

よしよし、よしよし。大丈夫。

大丈夫……大丈夫……大丈夫」

▲1 ここでSE3がフェードアウトする

●【7】

■胸がきゅんと締め付けられる。

『ここまでおびえていたのに来てくれたのか』と思うと、主人公の事が愛おしくてたまらず、その勇気と献身を尊敬するとともに、申し訳なくもなるし、心配にもなる

「甘くかすれた声で。

ものすごく嬉しい気持ちと、申し訳なさ、心配する気持ちが同居した感じで】

……てかさあ、こんな怖がってたのに来てくれたんだ……？
♥

【切なげに息をつく。

喜びと感謝の気持ちを抑えきれない、という感じで】

……はあ……♡

■『こんな優しい人、自分が見張っていてあげなくちゃ、悪い人に利用されてしまいそう。だったら、自分のものにするのが最適だ』と自然に思う。

本来の詩音の性格とはかけ離れているようで、同じなようでもある意見に混乱する。違和感があるのに、己の行動が制御できない。まさに『新しい力に酔っている』状態
【甘くかすれた声で。

『主人公の事が好きで好きでたまらない』というのが伝わってくる感じで】
もう、マジでヤバいんだけど……♡
ちよつと好き過ぎる……♡

■とにかく気持ちが抑えられない。『主人公が愛おしい。好きだ。キスしたい』と思った次の瞬間には、もうそうしてしまっている

【※しばらく※ キスする。

例によって、話の途中で脈絡もなくキスを始める。

ごく自然に始めるが濃い、夢中で主人公の口の中を貪るようなディープキス】

んっふ……ちゅくっ♡

ちゅっ♡ ちゅっ♡ ふちゅうっ♡

あんむ……れるれる……れるれる……れるれる……れるるうっ♡
れるる……ちゆるっ♡

ちゅっ♡ ちゅっ♡ ちゅ♡

【うっとり息を吐く。

喜びと感謝の気持ちが抑えきれない、という感じで】

はああっ……♡

【嬉しそうに、真剣に、熱っぽく】

大好きだよ。……本気だから。

いいんちよが頑張ってくれた分、あたしも頑張るからね。

【※※までささやく※】

ひそひそと嬉しそうに。内緒話をするような感じで】

これからはずくっと気持ちいいよ……♡ ※

〈主人公〉

「えっ……？ それは、どういう……？」

● 【7】

■ 自分の発言について補足していく。

だが、自分で言っていて、自分の発言ではないかのような気がしている。

『自分としては順序も内容も正しい発言なのだが、主人公にとっては脈絡がなく感じられるものである』という客観的な視点が持てなくなってきた

「【ダウンナー気味でありつつも、嬉しそうに。

※のセリフ終わりに向かって、だんだんとナチュラルに甘く、セクシーな雰囲気になっていく。

『自分の力が主人公の役に立てそう嬉しい』と言わんばかりに」
んく……？ ♡ そのまんまの意味。

委員長は、あたしが一番困ってる時に助けてくれたから。

これからは一生、好きな時に気持ちよくしてあげるねって事…… ♡

【『起きたて』 Ⅱ 『目覚めたばかりのサキユバス』】

あたしもさあ……まだ『起きたて』だから、いきなり何（なん）でもはできないけど。

【どこか高揚した、少しうっとりした、興奮気味の印象で。

まさに『新しい力に酔い、冷静さを見失っている』状態】

今、凄い、色んな情報……っていうのかな。

知識？ が頭に入ってきてて。

どんどん自分が新しくなっていくのがわかる……。

だからこれからきつと、ちゃんとサキユバスらしくなれてくと思う。

■無意識のうちに、主人公にセックスをねだるような発言をする

【ちよつと恥ずかしそうに、でも嬉しそうに】

……でも、経験も必要じゃん？

【『幸せ』 Ⅱ 『気持ちのいいセックス』】

いいんちよが育ててくれたら、ほんとにいつでも幸せしてあげれるようになると思う…

…
♡

【※※までささやく※】

ひそひそと嬉しそうに。内緒話をするような感じで】

『詩音』って呼んでくれたら、すぐに現れて。

委員長がしたいエロい事、全部してあげて。

一生やる相手に困らない人生にしてあげるね」 ※

● ※移動※

● 【1】

「【※3回※ キスする。

例によって、話の途中で脈絡もなくキスを始める。

ごく自然に始めるが濃い、夢中で主人公の口の中を貪るようなデープキス】

ちゅ♡♡♡ ちゅ♡♡♡ ちゅっ♡

【うっとり息を吐く。

喜びと感謝の気持ちを抑えきれない、という感じで】

はあ……♡

【うっとり嬉しそうに、熱っぽく。感嘆の『ああ』】

ああ……♡

好きだよいいんちよ。好き。

【※5回※ 好きと言っている】

好き好き好き好き好き。

大好き♡

【※1回※ キスする】

ちゅ♡

■キスした事で、さらに力が強まる。

主人公の身体の中の変化まで、なんとなく察せられるようになる。

これは自分の体液を主人公の口内に流し込んだことによるものなのだが、詩音はまだその事を理解していない

●※少しだけ、くいと身体を引いてから※ しばらくその位置で話す

【ふと気づいたように】

ん？

● ※少し間をあけてから※ 話す
……あ。

【思わず笑みが漏れる、という感じで】
はは……♡

【にやにやと、嬉しそうに指摘する。

『お腹の中『きゅーっ』てなった』 Ⅱ 『性的興奮で、身体の中が疼いた』
今、お腹の中『きゅーっ』てなったでしょ」

〈主人公〉

「……!!」

● ※移動※

● 【7】

「【にやにやと嬉しそうに、少し意地悪に追及する】
もしかして興奮した？」

私、まだ頭ん中までは読んであげられないから、教えてよ。

【※※までささやく※】
にやにやと、少しだけ意地悪に」

いつでもやれるって言われて。どんな事想像したの？♥」※

〈主人公〉

「あっ……♥ あっ……♥ それは……♥」

● ※移動※

● 【1】

■ 正面からにやにやと、嬉しそうに主人公を見つめて。

謎の征服感と、特に何もしていないというのに『勝った』と感じるといふ、不思議な感覚に支配される。完全に酔っている。

それは主人公の内側にまで入り込んで理解できるようになったという喜びと『こんな事は他の人にはできない。私だけが主人公を真に理解する事ができるし、最も深い関係になる事ができる』という自負によるもののだが、詩音自身はこれを言語化できていない

「【にやにやと嬉しそうに、少し意地悪に。』

『教えてくれなくてもわかるから別にいいよ』という感じで

んく……？

ふふふ。

いいよ？ 言わなくても。

【特に嬉しそうに。勝ち誇ったような声で】

めちやめちやエロい気分になってくれたって事だけは、わかったから……♡

【※1回※ キスする】

ちゅ♡

【うっとり嬉しそうに、熱っぽく。感嘆の『ああ』】

ああ……♡ 好きだよいいんちよ。

大好き……♡

〈主人公〉

「……♡」

SE4 詩音が主人公の頭をなでる音

【最初から最後まで流す】

【繰り返して流す】

【次の『詩音』のセリフと同時に流す】

【▲2 でフェードアウトする】

● ※移動※

●【1】 下10センチ

■主人公の頭を優しく撫でながら、首筋を舐める

「【※しばらく※】キスして、舐める。」

わざとじゆるじゆる音を立てるキス】

んんふ……ちゆるっ♡

ちゅ♡ ちゅ♡ ちゅ♡

れるるる……ちゅ♡

べろっ べろっ、べろっ……ちゅ♡

【うっとり嬉しそうに】

一杯気持ちいいのしょうね。

【満足げに息を吐く】

ふうう……♡

【※3回※】首にキスする。

わざとじゆるじゆる音を立てるキス】

ちゅっ♡ ちゅっ♡ ちゅっ♡

〈主人公〉

「あぁっ……♡」

● ※移動※

● 【7】 下10センチ

■ 主人公の首筋を舐める。今度は右耳寄りで

「にやにやと嬉しそうに、ゆっくりと。

『可愛い声』『こういう声』 Ⅱ 『喘ぎ声』

あゝ……♡

今、めっちゃ可愛い声出たね……♡

【くすくすと、少し意地悪にからかう】

いいんちよってやる時、こういう声出すんだ……♡

【※3回※ 首にキスする。

わざとじゆるじゆる音を立てるキス】

ちゅ♡ ちゅ♡ ちゅぶっ♡

【にやにやと、嬉しくてたまらないという感じで】

可愛過ぎじゃない？

【優しく。

少し声色を変えてドキッとさせる】

一生あたしだけに聞かせてね」

〈主人公〉

「あっ……ああっ……♡」

● ※移動※

● [7]

「〔※主人公の右耳を優しく吹く※〕

……ふ♡」

〈主人公〉

「あっ……!♡」

▲ 2 ここでSE4がフェードアウトする

● [7]

「【ふと思いついたように。

『大事な事』とは言いつつ、何気なく、ごく普通の会話のように切り出す】
あ……そうだ。あのね。いいんちよ。」

大事な事言っとくね」

〈主人公〉

「…………？」

●【7】

「【やさやくような、ウイスパークな声で。

淡々と、だがじつとりとした情熱と執着が感じられるような声で。少しゆっくり目に、しっかりと言う。

さらりと切り出しつつも、絶対に聞いておいてほしい事なので。

『ささやき』ではなく『ささやきっぽい声』で」

あたしね？ 絶対に合意のえっちかしない。

委員長とのいちやいちやセックスしかしない。

他の淫魔は知らないけど、あたしは好きな人としかする気ないし。

【『喜んでくれてるなあ……♥』を、少し優しくセクシーに】

その時は『喜んでくれてるなあ……♥』って思いながら、したい。

【自然な範囲で声が少し冷たくなり、きっぱりと。

『好きな人を無理やり犯す淫魔』を軽蔑している感じで】

無理やりするなんて、絶対あり得ない。

【優しく気遣うように。

自分は件の『好きな人を無理やり犯す淫魔』とは違うと主張したい】

今日もほんとは……もし本気で嫌がってたら、キスだけでおしまいにするつもりだったんだよ？」

〈主人公〉

「……………」

●【7】

「【とても優しく、ささやくように】

だからさ……言いたい事わかる？

【※1回※ 耳にキスする】

ちゅ♡

【話しながら ※1回※ 耳にキスする】

私がかうやって、ちゅ。

してるって事はね？

いいんちよが『したい』って思ってくれてるのが、伝わってきてるからなんだよ……♡

〈主人公〉

「……………!♥」

●【7】

「【※】1回【※】 耳にキスする」

ん…………ちゅ♥

【※】※までささやく【※】

少しだけ早口で。

優しくさらりと、だが有無を言わせない感じで」

背中向けるようにしてあたしの膝乗って?」 ※

〈主人公〉

「…………えっ…………あ?♥」

●【7】

■主人公が戸惑いながらも、従う気らしい事を理解している。困惑しながらも、期待しているのを肌で感じ取っている。

本来の自分とは別人のような余裕が生まれ、穏やかに主人公の行動を促す

「優しくくすくす笑う」

……ふふふ♥

「とても優しく、だが有無を言わせない感じで、主人公に行動を促す。

『身体も強くなってる』 Ⅱ 『若い女性が膝に乗った程度では何の問題もない位、肉体的に強化されている』

うん。思いつきり乗って大丈夫。

何（なん）か身体も強くなってるみたいだから。平気だよ」

SE5 主人公が移動する音

【最初から最後まで流す】

● ※移動※

● 「7」から「5」へ移って、少し制止する

● 少ししてから、「5」から「3」へ

■ 主人公が移動してきて、詩音の膝の上に乗る。

今度は、左耳側から顔を出す形で、主人公を後ろから抱く形で座る。

自分のせいで主人公が発情し、セックスに積極的になっている事が、嬉しくてたまらな

い。

先程までは『自分を気遣ってのもの』だと思っていたが、どうやらそうではないらしい事を確信して、とても嬉しい

●※【5】から【3】に向かって、ぐるっと移動しながら※ 話す。

以後、【5（背面）】側の【3】

背後から首を耳元へ出してきたイメージ

「【にやにやと、少し意地悪にからかう。

『嬉しくてたまらない』という感じで」

てか、素直に言う事聞くのエロく……♡

やっぱりしたくてしょうがないんじゃん。可愛い♡

【※鼻呼吸で※ 表現する。

興奮気味に嬉しそうに、動物のように主人公の匂いをかぐ】

すんすん、すんすん、すんすん。

はあはあ。はあはあ。はあはあ……♡

【特にゆっくり、深く吸ってかぐ】

すーっ……♡

【低い声でうっとり。

『キている』 Ⅱ 『性的に、我慢の限界が来ている』

あー……♡ かなりキてるね。

【うっとりとお息をつく】

はあ……♡

【低い声で嬉しそうにからかう】

へえ……♡

そんっ、なにイきたいのか……♡

【からかうというより、嬉しくてしようがないという感じで】

やらしく……♡

【途端に優しく、さらっと。

『喉乾いたでしょう。水をあげるね』という位の感じで】

もう、すぐに気持ちいいと欲しい感じでしょ。

【ものすごく優しく、だがさらっと。

その軽さが、かえって全てを委ねたくなるくらいに】

いいよ？ しょ？」

〈主人公〉

「……っ!？」

●【3】

「優しく、さらっと。」

まるでそれが当たり前のような雰囲気です」

あはは、隠さなくていいよ？

■現在わかりうる範囲で、サキユバスの力について述べる。

ここまでで、自分がその身で体験した事、感じた事から推測して話している

【※マークまで、少しゆっくり目に。

優しく、時々『嬉しくてつい笑ってしまう』という感じで。

『考えながら話している』というのが伝わるように。

また、説明セリフのため、特に伝わりやすさを意識する目的でゆっくり目に】

さつき、いいんちよがキス初めてだって当てたのと同じ。

これ、淫魔の力みたい。

【自信がないので疑問形になる】

粘膜接触？　する度にね。

あたしはいいんちよの事を、深く感じ取れるようになってるっぽい。

【ゆっくりと、少しセクシーに】

何を考えてるのか……何をしたいのか。

どういう事が……好きなのか。

言われなくてもわかるようになって……してあげられるようになってるんだよ……♥※
■自分を売り込む。自分という存在のセールスポイントを伝えれば、主人公がもっと自分を気に入ってくれて、継続的に関係を結んでくれるのではないかと安易に思っている。

サキュバスの血の力に振り回されているせいで、不思議な余裕には満ちている。
だが、本質的には自信がなく、素直に『恋人にしてほしい』と言えない。
それが『便利』という、自分を卑下するような表現に繋がってしまう

【くすくすと少し声を弾ませて】

ね。いいでしょ？

こういうのよくない？

『こういう子いたら便利だなく』……って、思わない？』

〈主人公〉

「便利って……」

●【3】

■主人公の眉が『聞き捨てならない』『そんな言葉を使うのはよくない』と、露骨にピクリと動く。

だが、詩音はそれに気づかない。

告白の返事を聞くのが恐ろしく、返事を避けるあまり、思ってもいない事を言い、『セフレにして』などという、誰が聞いても止めるような提案をしてしまう

「くすくすと少し声を弾ませて。」

自分の言っている事のおかしさにも、主人公がそれに拒否反応を起こしている事にも気づいていない」

だから、別に付き合ってくれなくていいよ。セフレにして？」

● ※移動※

● 【1】

● ※背後から頭を動かして、キスしている感じを意識して※ 話す

「『これは名案だ』と言わんばかりの声で。」

また、話しながら脈絡なくキスする」

ね？ ちゅ ♡

〈主人公〉

「詩音ちゃん……」

● 【1】

「【とても優しく続きを促す】
ん？」

〈主人公〉

「……自分の事、そんな風に言わないで。

『便利』なんて、人に使う言葉じゃないよ？」

●【1】

■主人公の言っている事が、わかるはずなのにわからず、きよとんとする。

『泥酔状態で、話を真剣に聞いているのに頭に入って来ない。自分自身困ってしまい、これを悟られないように誤魔化すのが精いっぱい』という状態に近い

「【きよとんと息をつく。】

予想外の反応だったので

……」

〈主人公〉

「それから、そんな関係も、ダメ。

そういう風にはならない。」

その……急にこんな事になったから、わたしもまだ気持ちの整理がついてないけど……でも……」

●【1】

■続きを聞くのが怖くなり、言葉を遮る。

実は主人公は『好きって言うてくれて嬉しい。これからの事を前向きに考えたい』と続けようとしていた。

だが、詩音は『聞きたくない事を言われるかもしれない。もし、身体だけの関係にもなれないなら、自分はどうすればいいのかわからない』とネガティブに考え、怖くなってしまった。また、この酔いが醒めるのも怖い。強引に事を進めてしまいたいと思っている

「【何でもないような態度で、話を終わらせる。

一瞬正気になり、強い不安を感じるが、また酔っているさなかのような状態に戻り、話題をセックスに持って行こうとする」

まあ……とりあえず返事はしなくていいから」

●※移動※

●【3】（以後、【5（背面）】側の【3】）

●※背後から頭を動かして、耳元に唇を持って行った感じをイメージして※ 話す

「ものすごく優しく、だがさらっと話題を変える。」

その軽さが、かえって全てを委ねたくなるくらいに」

まずは軽くイッとこっか。

イきたいんだもんね。いいよ？

一回イって。これからいきまくる為の準備運動しよ？♥

〈主人公〉

「……………あ……………？ え……………？」

●【3】

●※背後から頭を動かして、耳元に唇を持って行った感じをイメージして※ 話す

■無意識のうちに、サキユバスの力を行使する。

それは『主人公の性的興奮を高め、少々強引にセックスに持ちこむ』というもの。

言葉では『主人公が嫌だと思ふ事はしない』と誓っているためにかかり方は非常に弱いが、結局主人公に『嫌ではないが、他に話すべき事があるのにうやむやにされて少々納得がいかない』という思いをさせてしまう

「【うっとり嬉しそうに】

ああ……………いいんちよ、超可愛い……………♥

【※4回※ 興奮気味にゆっくり呼吸する】

ふーっ……♡ はー……っ♡ ふー……♡

ふううっ……♡

【ものすごく優しく、だがさらっと。

その軽さが、かえって全てを委ねたくなるくらいに】

ほら足開いて。触りやすい格好になんな？♡

【※※までささやく※

少しだけ早口で。ダメ押しのように促す】

気持ちいいのしたいでしょ？

クリでイこ？♡ ※

SE6 主人公が移動する音2

【最初から最後まで流す】

● 【3】

「くすくすと嬉しそうに】

ふふ♡ 素直で偉く……♡

SE7 詩音が主人公のスカートの中に手を入れ、クリトリスを探す音

【最初から最後まで流す】

【次の『詩音』のセリフと同時に流す】

●【3】

■主人公のスカートに手を入れ、クリトリスのありかを探している。
手を動かしながら呼吸したり、話したりする

「【※しばらく※】吐息。

興奮気味の、少し荒い呼吸】

んっ……………♥

はあ、はあ、はあ。

はあ、はあ、ふうっ……………♥

はああっ……………♥

んっ……………♥

■ここで主人公のクリトリスを見つける

【低めの声で嬉しそうに】

……………あく……………。

……………あつた♥

SE8 詩音が主人公のクリトリスを愛撫する音

【最初から最後まで流す】

【次の『詩音』のセリフと同時に流す】

【終わったタイミングでSE9と切り替える】

【少し大きめの音量で流す】

【SE8から11は、▲特殊のタイミングで鳴っているSEが、音量が一段階大きくなる】

SE9 詩音が主人公のクリトリスを愛撫する音2

【最初から最後まで流す】

【次の『詩音』のセリフと同時に流す】

【終わったタイミングでSE9と切り替える】

【少し大きめの音量で流す】

SE10 詩音が主人公のクリトリスを愛撫する音3

【最初から最後まで流す】

【次の『詩音』のセリフと同時に流す】

【終わったタイミングでSE11と切り替える】

【少し大きめの音量で流す】

SE11 詩音が主人公のクリトリスを愛撫する音

【SE8と同じ音】

【最初から最後まで流す】

【繰り返して流す】

【次の『詩音』のセリフと同時に流す】

【少し大きめの音量で流す】

【▲3 で一段階速度と音量が大きくなる】

【▲4 でさらにもう一段階速度と音量が大きくなる】

【▲5 でフェードアウトする】

●【3】

■クリトリスを愛撫し始める。主人公の股間が濡れたり、熱くなったりしている事を、正直な嬉しさ半分、煽る気持ち半分で述べる

【興奮で思わず声が低くなる感じで】

あゝ……♡ うわ、ぬるぬる。

すっごい熱くなってるね。可愛い……♡

【※3回※ 興奮気味にゆっくり呼吸する】

はあ、はあ……はあ。

【優しく、ささやくように。

トラック序盤の、主人公をいたわる口調が少しセクシーになっている感じでよしよし、よしよし。もう大丈夫。

我慢して偉いね。

【※※までささやく※

くすくすと嬉しそうに、余裕ありげに】

これから一杯。ずっと気持ちいいよ♥

大好きなクリいじり、毎日あたしがしたげるからね♥】※

〈主人公〉

「……あ♥ あっ♥ ああっ……♥」

●【3】

■主人公の粘膜に触れ、喘ぎ声を聞いて、興奮を抑えられない。いよいよ、自分が抑えられなくなっていく

「優しく、ささやくように。」

『全部お見通しだよ』という感じで」

……わかるよ？

「くすくすと嬉しそうに。」

優しくからかう。

※意地悪な感じではなく『優しくからかわれて、恥ずかしいけれど、そのまま身を委ねたくなる感じ』でお願いします※

『やでも』 Ⅱ 『いや、でも』

やでもこれは、サキユバスじゃなくてもわかるって

委員長さ、さっきからちよつと身体反って。

腰動いちゃってんの、気づいてないの？」

〈主人公〉

「……！ つあ、これはっ……♡」

●【3】

「くすくすと嬉しそうに。」

優しくからかう。

※意地悪な感じではなく『優しくからかわれて、恥ずかしいけれど、そのまま身を委ね

たくなる感じ』でお願いします※】

はは。無意識だったんだ。

もつとエロいじゃん♥

【ひとときわたく、優しく。

『ここで完全に、主人公を落として、自分の意のままにさせてやる』という感じで……そういうの、すっごい好き。

一杯良くしたげるから、あたしでイってね。

毎日あたしで気持ち良くなつて、あたしなしじゃいられなくなつてね♥

【※しばらく※ 耳舐めする。

優しく、愛撫の添え物としての比較的穏やかな耳舐め】

んっふ……ふちゅっ……♥ はんむ……ちゅ♥

ちゅ♥ ちゅ♥ ちゅっ♥ ちゅくぶっ……れるおっ♥

【※2回※ 軽く耳を吹く。

優しく、ちよつとドキツと、びくつとさせる程度のイメージで】

ふーっ……♥ ふ♥

〈主人公〉

「あ……!♥」

●【3】

■主人公の性器の粘膜に触れると、キスの時とは違う情報が感じとれるようになっていく。主人公が今どの程度気持ちよくなっているか、どういう触り方が感じるか、どんどんわかるようになる。

主人公の濡れ具合や感じ具合を、正直な嬉しさ半分、わざと言葉にして煽る気持ち半分で伝えながら、愛撫を続ける

「【興奮気味に嬉しそうに。】

『どくうっ……って溢れてきた』 Ⅱ 『愛液が一気に溢れてきた』

ああ……♥ ぬるぬる沢山であったかあい……♥

今、どくうっ……って溢れてきたよ。感じてるんだね♥

【優しく、ささやくように。】

トラック序盤の、主人公をいたわる口調が少しセクシーになっている感じで

よしよし、よしよし。よしよし、よしよし、よしよし。

大好きだよ。このまましようね♥

よしよし、よしよし♥

よしよし、よしよし♥

【うっとり興奮気味にため息をつく】

はああ……♡

【嬉しそうに、独り言のように。

興奮しつつ、純粹に興味があって関心しているような感じで

そっかあ、こういう触り方が好きか。

ふくん……。

いつもこんな風にクリシコしてんだね。

【※しばらく※ 耳舐めする。

優しく、愛撫の添え物としての比較的穏やかな耳舐め】

ぴちやちや……ぴちゆるっ……くちゅっ♡

〈主人公〉

「こんな風って……♡」

●【3】

●※※まで、少しだけ前後に揺れながら※ 話す

■『こんな風って？』と問われたので、実際に触れて『こんな風』を表現しながら愛撫する

「くすくすと嬉しそうに。

優しくからかう。

※意地悪な感じではなく『優しくからかわれて、恥ずかしいけれど、そのまま身を委ねたくなる感じ』でお願いします※

こんな風って、こういう風だよ」

▲特殊 このタイミングで鳴っているSEの音量が一段階大きくなる

●【3】

「こういうさ？」

腰振りながら、クリちよっと押してあげるみたいに擦るオナニーが大好きなんですよ？

♥※

【※※までささやく※
くすくすと嬉しそうに、余裕ありげに】

いいよ、いいよ。好きなように動きな？♥

自分が気持ち良くなる事だけ考えて、あたしの指使ってイコ？♥

【※9回※ 呼吸する。

興奮気味の荒い呼吸。どんどん長く、荒くなる】

はあ、はあ、はあ。

※

はあ、はあ、はああつ。

はあ、はあ、はーっ……♡

【うっとり興奮気味に】

あああ……可愛い……♡

■ どうにかして、少しでも主人公をもっと興奮させたくて、煽る言葉を考える。

しかし、一見余裕ありげには見えても、実際は頭がろくに働いていない。

『クリトリスが大きい』という、単なる詩音の印象でしかない、何の根拠もない適当な事を言ってしまう

【ひそひそと、ささやくように。

内緒話をするような感じでからかう。

※意地悪な感じではなく『優しくからかわれて、恥ずかしいけれど、そのまま身を委ねたくなる感じ』でお願いします※

……いいんちよのクリさ？♡

いいんちよのコキ慣れエロエロデカクリ、超可愛いね……♡

めっちゃあたしに甘えてきて。

『イきたい♡イきたい♡』ってよだれ垂らしながら、びくっ♡ びくっ♡ って感じま

くってるよ？♡

【うっとり興奮気味に呼吸する】

はあ……♡

■ 少しでも頭が働いて『これでは、他の人のクリトリスを触った事があるかのよう』と気づく。なので、そうではない事を補足する

【ちよつと苦笑して、自分の発言を補足する】

つつても、他の人のクリ知らないけど……♡

【嬉しそうに熱っぽく、素直な感想を述べる。】

『主人公の事が好きで好きでたまらないから、その体の一部も同様に愛おしく思う』という感じで】

あたしは委員長のクリ、可愛くて大好き。

すっごい愛しい、すっごい可愛い。

ずっとでも擦ってられそうって思うよ……♡

■ 表に出る『余裕のある雰囲気』と、心の中の『必死さ、感情のまま行動している』感じが乖離している。

実際は『自分だけを選んでほしい、自分だけとセックスしてほしい。できる事なら恋人になりたい』と必死だが、サキユバスの力に酔っているせいで、自然とSっぽい雰囲気になる

【ひそひそと、ささやくように。】

優しく、だがどこか有無を言わせない感じで】

だから今日からは一人でしないでね？

あたしだけがこのクリイカすから。

破ったらダメだからね？♥

そんな事したら。『詩音ちゃんに触られる方がいい』って身体が覚えるまで、絶対やめないクリコキの刑に処すから。

●※少し間をあげてから※ 話す

■主人公の股間から、さらにどろっと愛液が滴ってくる。今の自分の言葉が、性的興奮を煽ったのだと気づく。

自分が今主人公を性的に支配しており、喜ばせているという事実が嬉しくてたまらない
【少し驚いて】

……あ。

【少しだけ意地悪にからかう。

嬉しくてたまらないという感じで】

また興奮した……？

やっぱこういうのが好きなんだ。

意地悪言われながらされんのが好きなんだ♥」

▲3 ここでSE11の音量と速度が一段階大きくなる

「【※※※までささやく※

くすくすと嬉しそうに、余裕ありげに】

だって、またどろって一杯出てきたよ？♥

いいんちよさあ、今日絶対オナる気でしょ。

今もしてあげてるのに、もう次シコってもらおう事考えてるでしょ♥

オナったらおしおきとか、意味わかんない事言われてるのに。

興奮してクリ真っ赤にしてんでしょ……♥ ※

【ひとときわ低い声で興奮気味に。

主人公への愛情と興奮が抑えきれない感じで】

あゝ……♥

可愛い。エロいいんちよ、やばい……♥

【※しばらく※ 耳舐めする。

先程よりも明らかに興奮した、わざと音を立ててする耳舐め】

んっふ。ぢゅっ♥

ちゅぶるる、じゅるっ♥

れれれれ……れれれれ……れれれるっ♥

ぴちゅっ♡ ちゅぶっ♡ じゅるるるるっ♡

【ひそひそと、ささやくように。とても優しく。】

※意地悪な感じではなく『優しくからかわれて、恥ずかしいけれど、そのまま身を委ねたくなる感じ』でお願いします※

いいよ。一杯エロくなってね。あたしが全部受け止めるからね。

【※しばらく※ 耳舐めする。】

先程よりも明らかに興奮した、わざと音を立ててする耳舐め】

んっふ………られるるっ♡

くっぽ、くっぽ、くっぽ、くっぽ♡

じゅるるるるうっ………♡

〈主人公〉

「あ♡ ……あ♡ ! ああっ………!♡」

● 【3】

■ 主人公の絶頂が近づいている事を理解する。嬉しくて嬉しくてたまらない
「【ひそひそと、ささやくように。】

とても優しく。

※意地悪な感じではなく『優しくからかわれて、恥ずかしいけれど、そのまま身を委ねたくなる感じ』でお願いします※

ふふ。いきそう……？?♡

▲4 ここでSE11の音量と速度が、さらにもう一段階大きくなる

●【3】

「【ものすごく優しく甘く、さらっと。

その軽さが、かえって全てを委ねたくなるくらいに。

夜中にお菓子を食べる程度の『ちよっと悪い事』を促す程度の軽さで】

いいよ。イこ？ イっちやおく♡？

イこ？ イこ。

イクこっ？♡

【※しばらく※ 耳舐めする。

優しく、愛撫の添え物としての比較的穏やかな耳舐め】

ちゅ♡

れるるるっ……くぽっ♡

くぼっ ♡ くぼっ ♡ くぼっ ♡ くぼっ ♡ くぼおっ ♡

【※※までささやく※

ものすごく優しく甘く、さらっと。

その軽さが、かえって全てを委ねたくなるくらいに。

夜中にお菓子を食べる程度の『ちよっと悪い事』を促す程度の軽さで】

イクけ。イクけ。

イクけえ……♡ ※

■ 主人公の絶頂が近づく

【※耳舐めしながら※ 少し苦しそうに喘ぐ。

絶頂しそうな主人公が、不規則にびくびくと痙攣するので】

んっ……♡ んんんう……ん！ ♡

んんう……っあ！ ♡

んっ ♡ んっ ♡ んっ ♡

【※ここで主人公が絶頂する※

※耳舐めしながら※ 少し苦しそうに喘ぐ。

少し驚いたような、こもった喘ぎをする事で、絶頂ポイントをわかりやすく伝えて下さ

い】

んうううっ……！ ♡ 「」

▲5 ここでSEE11がフェードアウトする

●【3】

「【※4回※ 呼吸する。

荒く、興奮気味の、満足した呼吸。

段々穏やかに、ゆっくりになる」

ふうふうふうっ……♡

ふー……っ♡ ふー……っ♡ ふー……っ♡

【※1回※ 耳にキスする。

軽く触れるだけのキス」

ちゅ♡

【ひときわ低い声で興奮気味に。

主人公への愛情と興奮が抑えきれない感じで】

あ〜……可愛い……♡

ガチイキじゃん……♡

【特に嬉しそうに、ニコニコと無邪気に。

『達成感がものすごい』という感じで】

あたしでイっちゃったね♥

【嬉しくてたまらないという感じで】

ふふ……ふふふふ……。

すっごい嬉しい。

【※1回※ 耳にキスする。

軽く触れるだけのキス】

……ちゅ♥
「

ここでフェードアウトして終了。